

故塩田章様を偲び

事務局長 山越 孝雄

偕行社前副理事長、故塩田章様のお人柄やご業績について、家族葬において参列者に配布されたご長女からのお礼状をもって紹介させて頂きます。

故塩田章が生まれた大正14年は、翌年には昭和元年を迎える西暦1925年、大正・昭和・平成・令和を通し、戦前戦後激動の時代を生きた94年の生涯でした。

山口、広島のほぼ県境（和木町）を生まれ故郷とし、広島幼年学校から陸軍士官学校を卒業後、20歳にして終戦、大学へ進学しました。そして四角四面とは程遠い性格でしたのに、選んだ職種は国家公務員で自治省（現総務省）に入省、50代で防衛庁へ。そこで職業軍人をシビリアンコントロールする役職だったのも何かの縁でしょうか。

また、彼の仕事上の軌跡を語る上で逃せぬ項目の一つが昨年返還50周年を迎えた小笠原の返還時、総合事務所長としての赴任です。

復帰直後の新天地に、新たな戸籍を創設、役所の行政機構を整備し、住民の福利厚生まで、当時都庁から同時赴

任されていた染谷恒夫村長と共に奮闘3年、初代を全うしました。

今一つは、卒業した陸軍士官学校と戦後できた自衛隊の元幹部自衛官を結び合わせ、偕行社という名の法人組織に共存の形で集合させて旧陸軍のおもかげを後世に残し伝えようと微力を尽くしたことででしょうか。

防衛庁退職後、偕行社の方々との親しいご交誼は、父の晩年を豊かな実りあるものとしてくれました。

そんな父がどこへ行くにも何をするにもついて回ったのがセリーグ、広島カープの強烈なファン根性。初優勝の頃には当時の古葉監督にもお会いして杯を交わしたこともありました。

ここ数年、お世話になっていた八王子市の第二青陽園の個室には、常に布製の赤ヘルとユニフォームが誇らしげに置かれていました。囲碁、将棋も好きで、なかなかの腕前（？）だと本人は自負していたようですが、入所したホームのお友達の方々とマージャン将棋に明け暮れる日々を楽しんでいました。

娘達の目からは、おおらかな性格の父で、あまりうるさいことを言われた覚えはありません。常に多くのお友達、親しい知人に囲まれての人生でした。亡くなる数日前に「いろいろなことをしたよ」「いい人生だったよ」と一言伝えてくれたのが心に残ります。